

茗台中学校 3年 社会（公民） 「模擬裁判（裁判員になって判決を出そう）」

授業のねらい

- 裁判の流れを知り、イメージをもつ。
- 将来、裁判員として刑事裁判に参加したときに、正しい判断で有罪・無罪の判決を下せるように練習をする。

タブレット端末活用の工夫／教育データ活用の工夫

- 簡易的な模擬裁判を行った後に、タブレット端末の「オクリンク」を使用して、被告人は有罪（赤）か、無罪（青）かを選び、その理由をカードに記入させる。
- 入力が完了したら送信し、送信後にその場で起立し自分が書いたものを発表する。
→クラスメイトがどちらの判決を下したのか、その理由も含め、画面で確認しながら全体で共有することができる。
- 発表後、自分と違う意見の人（違うカードの色を選んでいる人）を探し、討論することで考えを深めていく。
- 討論後、最終的に有罪か無罪かどちらの判決を下すのか、再度カードを選択し、どちらが多いか全体で共有する。



生徒の様子

- どちらの判決の方が多いのか、画面上の色で一目瞭然であり、「そうなの？」「なんで？」と自分と違う考えに反応する様子が見られた。

成果

- クラスメイトの選んだ判決を聞く（画面上でも確認できる）ことで自分の考えを深めたり、全体で意見を共有したりすることができた。

課題

- カードに文字を書く際、赤・青を選択しても背景が白になるため、背景の色を「なし」にする指示が必要である。